

東京・港区品川港南●がん予防から治療まで受診者・患者本位の診療を提供

喫煙（副流煙を含む）・医療被曝・ピロリ菌・B型C型肝炎ウイルス・アルコールは発がん因子です

副流煙を含む喫煙、医療被曝を含む放射線被曝、ピロリ菌やB型・C型肝炎ウイルスなどの微生物、アルコールは、WHO（世界保健機構）が公表している発がん因子である。戦後長年、「胃がん検診として然したる根拠も無く」バリウムX線検診が行われてきた。これに警鐘を鳴らしてきたのが、長年、がん予防と治療に取り組んできた『品川港南クリニック』の山内潤医師である。「世界標準では、医療でも、他に検査の手段がない場合を除き、人体に有害な医療被曝は厳に慎まなければなりません。まして検診では人体に有害な検査法は廃止すべきで、血液、尿、便などで体に有害な検査を行うべきです。ピロリ菌感染が大部分の胃がんの原因であることが解明されて10年も経ちます。ピロリ菌感染により引き起こされた慢性萎縮性胃炎の中から大部分の胃がんが発生することも解りました。少量の採血で可能な胃がん層別化検診（ABC検診）をまず行い、胃がんの発生リスクに応じて医療被曝のない胃内視鏡検査を行うことが理にかなっています」という山内院長に話を聞いた。

胃がん検診は胃内視鏡検査で

がんにならないためには世界標準であるWHO公表の発がん物質を吸わない（吸わない）、食べない、飲まない、



●山内 潤（やまうち・じゅん）
東京大学医学部卒。医学博士。東京大学医学部・医科学研究所付属病院外科（人工臓器移植診療科）で臨床・研究に従事。2002年品川港南クリニック開設。
■所属学会：日本ヘリコバクター学会／日本消化器内視鏡学会／日本癌治療学会／その他。

浴びないことが大事です。発がん微生物に感染しているかいないかの検査を出来るだけ早く受け、感染している場合は、まだがんになっていないことを確認し、早く治療を受けがんになるリスクを減らすこと。これががんの予防と早期発見に繋がります。

胃がんでは、ピロリ菌感染の場合には、胃内視鏡検査でまだ胃がんの発生していないことを確

認してピロリ菌除去治療を行います。

除菌に成功すると胃がん発生リスクは約三分の一になります。胃内視鏡も進化して苦痛の少ない経鼻内視鏡でも画像がよくなりました。当クリニックでは、毎朝、通常診療前に胃内視鏡を行い、受診者に仕事に行ってもらっています。

平成28年4月から、胃がん検診は従来のバリウムX線検診と胃内視鏡検診が同じ推奨レベルとなりました。受診者は選択可能になったのですが、受診者にこの事実を知らせず、従来通りの被曝検診を行う病院、検診業者が眼に余る状況にそれほど変わりありません。胃内視鏡検査では早期胃がんも発見できますが、バリウムX線検査では早期胃がんは発見できません。早期胃がんであれば、内視鏡下手術、小手術でほぼ100%治療します。

さて喫煙者ですが、ピロリ菌除菌に成功しても、胃がん発生リスクは非喫煙者の約2倍です。喫煙は肺がんだけでなく、あらゆるがんの原因であり、慢性閉塞性肺疾患など健康被害の元凶です。欧米先進国は禁煙政策を押し進め、喫煙率・肺がん死亡率共に低下しているなか、日本では一向に肺がん死亡率が減っていません。貧困な禁煙政策により、喫煙者の副流煙は周りの非喫煙者を喫煙者並みに高い肺がんの危機に晒しています。また、平成28年度から乳がん検診がマンモグラフィとなりましたが、4枚のX線撮影を行う検査です。その有効性は欧米先進国でも認められていません。乳がん検診は視診、触診が基本で、次に受けるのは超音波検査、MRI検査など放射線被曝を受けない検査法を選択すべきであると考えます。最後に、アルコールは百薬の長ではなく、WHO認定発がん物質であることを強調しておきます。

医療法人社団 済仁会
品川港南クリニック
<http://www.shinagawa-kohnan-clinic.jp/>
診療時間▶10:00～13:00 / 15:00～19:00（土・日は休診）※初診受付は定時の30分前に終了します
所在地▶東京都港区港南2-4-7 石橋ビル3F
アクセス▶JR「品川」駅東口（港南口）徒歩5分、京浜急行「品川」駅（都営浅草線相互乗り入れ）徒歩8分（東洋水産・品川フロントビル向い、旧海岸通り沿い）
電話▶03-3472-0085
品川港南クリニック

※WHO（世界保健機構）の評価（2007年）では、飲酒は口腔・咽頭・喉頭・食道・肝臓・大腸と女性の乳房のがんの原因となるとされています。またアルコールそのものに発がん性があり、少量の飲酒で赤くなる体質の2型アルコール脱水素酵素の働きが弱い人では、アルコール代謝産物のアセトアルデヒドが食道がんの原因となるとも報告されています。